

## 第4章 道づくりの進め方

### (1) 道づくりの3つの進め方

道づくりを進めるに当たっては、地方懇談会からの提言を踏まえ、次の3つの手法を積極的に取り入れます。

#### 「効率的、経済的な事業展開を図る」

近年の厳しい財政事情に対応し、限られた財源を有効に活用し、道路整備をより効率的、経済的に進めます。

具体的には、事業の選択と予算の集中投資や、地域の実情に応じた柔軟な規格運用（ローカルルール）によりコストを縮減し整備効果を早期に発現させること、建設や維持管理までを含めた総費用（ライフサイクルコスト）の軽減、路上工事に伴う交通規制時間の縮減などを図ります。

また、これまでに整備してきた道路（既存ストック）の維持管理の充実と有効活用を図ることや、渋滞対策を効率的に行うため交通需要マネジメントの導入、道路の管理手法への資産管理の考え方（アセットマネジメント<sup>\*1</sup>）の導入などに取り組んでいきます。

#### 「県民にわかりやすい指標による評価を行う」

道づくりの必要性や整備効果を明確にするため、事業前、事業中および完成後の評価を行い、県民にわかりやすく説明します。

評価に当たっては、「県民生活の何がどのように改善されるか」に着目したわかりやすい成果（アウトカム）による目標の設定や達成度の測定などにより、施策の社会的効果を捉え、これらの評価結果を計画決定に反映させます。

#### 「県民の意見を聞く取組みを進める」

計画決定の手続の透明性などを向上し、県民の意見やニーズを道づくりに反映するため、積極的な広報・説明活動を行い、アカウンタビリティ（説明責任）の向上に努めます。

また、地域の声を道路事業に確実に反映できるよう「道づくり協議会」を設けるなど、県民の意見を聞く取組みを進めます。

---

\*1 アセットマネジメント：道路管理においては、橋梁・トンネルなど道路を資産ととらえ、その損傷・劣化等を将来にわたり把握することにより、最も費用対効果の高い維持管理を行う概念。

効率的、経済的な事業展開を図る

- ・ 選択と集中やローカルルール\*による早期完成  
(\*ローカルルール：地域の実情に応じた柔軟な規格運用)
- ・ 建設から維持管理までを含めた総費用の軽減
- ・ 既存の道路(ストック)の維持管理の充実と有効活用

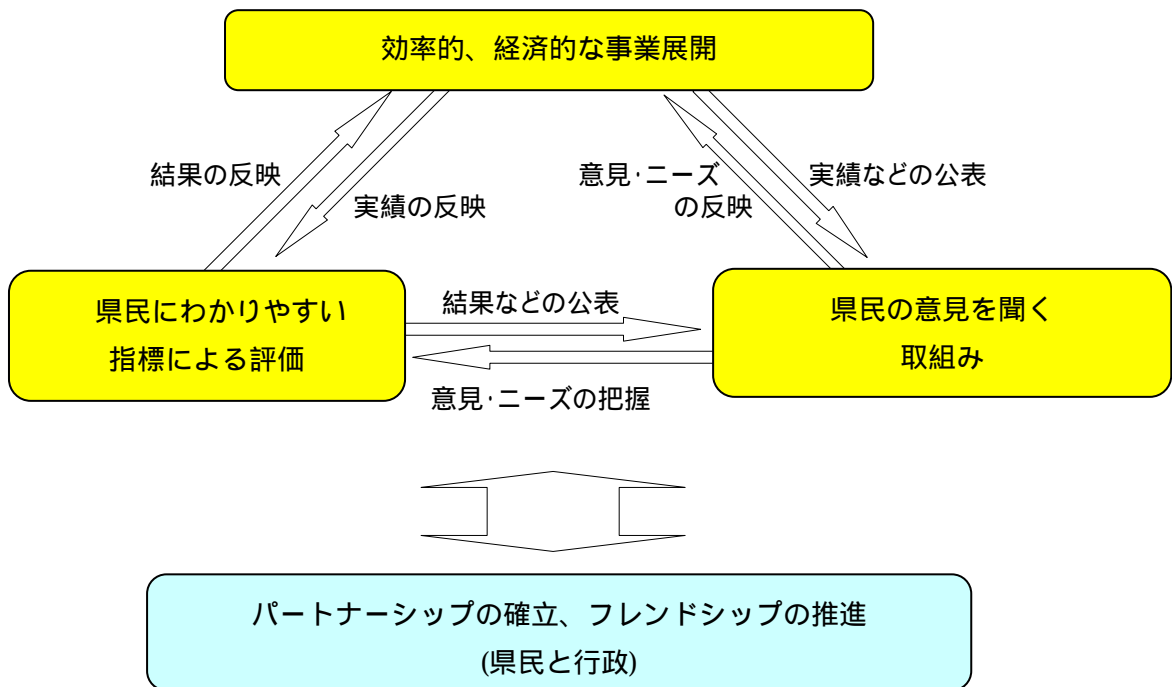
県民にわかりやすい指標による評価を行う

- ・ 事業前、事業中、完成後の評価
- ・ 成果(アウトカム)に着目した指標による評価

県民の意見を聞く取組みを進める

- ・ 積極的な広報・説明活動
- ・ 県民の意見やニーズの把握

道づくりの3つの進め方



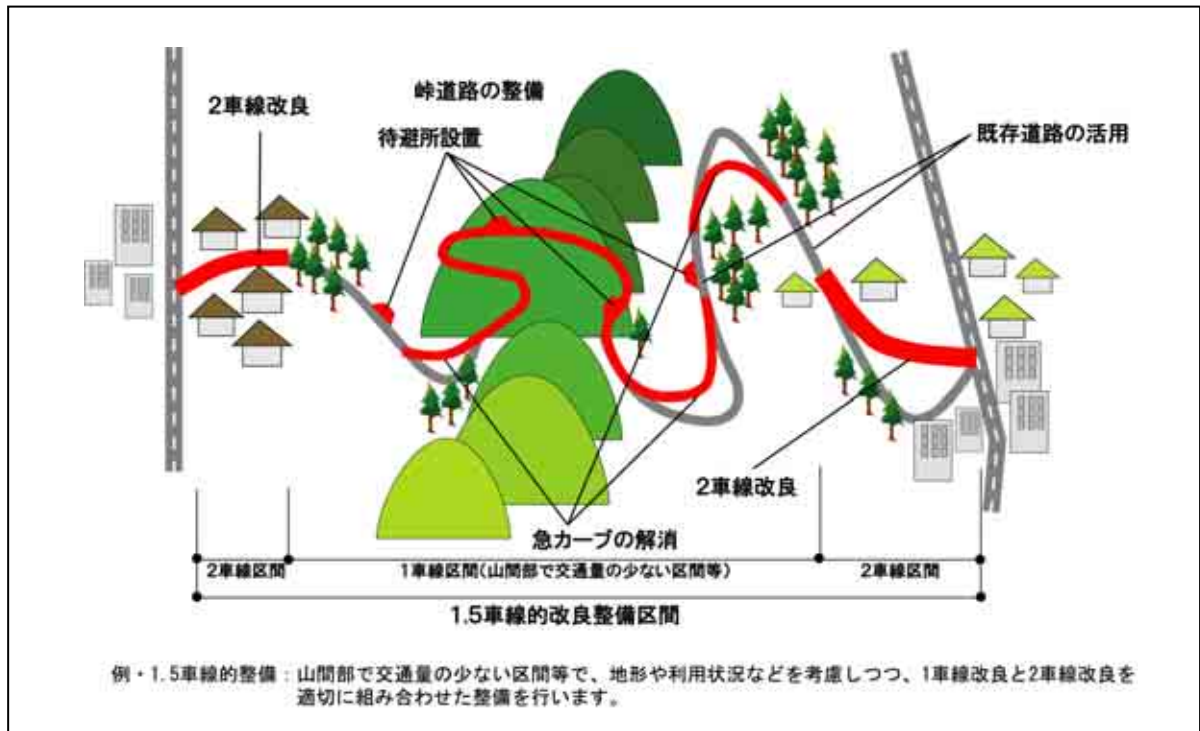
施策の関連図

(2) 道づくりの進め方の具体例

効率的、経済的な事業展開を図る

地域の実情にあった道路整備（ローカルルール）

地域の実情に応じた柔軟な規格運用により、コストの縮減や整備効果の早期発現を図ります。

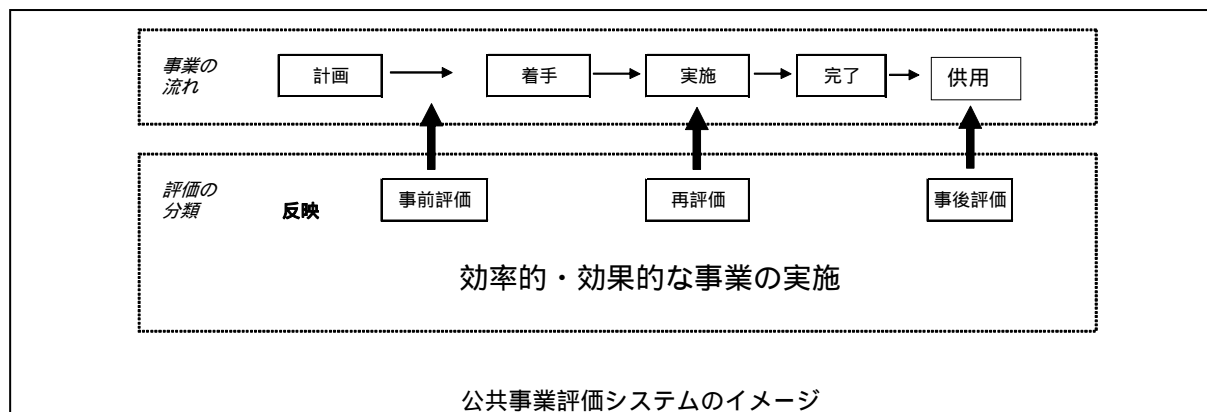


県民にわかりやすい指標による評価を行う

公共事業評価システムの拡充

公共事業の実施に当たっては、公共事業評価システムに基づき、事業の必要性、緊急性など総合的な評価を実施し、真に必要な事業の選択と集中により、事業の重点化と整備効果の早期発現を図ります。

また、これらの評価結果を計画決定に反映させます。



成果（アウトカム）に着目した指標による評価

道づくりの必要性を明確にするとともに道路事業を効率的に推進するため、「県民生活の何がどのように改善されるか」という成果に着目したわかりやすい指標（アウトカム指標）による評価を行い、公表していきます。

アウトカム指標の例

基本目標		アウトカム指標	過去(平成10年)	現在(平成15年)	将来
地域を広く	大都市圏との交流の促進	■大都市圏からの所要時間の短縮 (①東京から福井市までの所要時間の短縮) (②神戸から敦賀市までの所要時間の短縮)	①6時間40分 ②3時間50分 (小浜西IC開通前)	①6時間40分 <b>-60分</b> ②3時間20分 <b>-30分</b> (小浜西IC開通後)	①5時間20分 ②2時間50分
	県境を越えた連携の強化	■2時間行動圏の拡大 (福井市の日帰り圏の拡大)	117市町村	117市町村 <b>+17市町村</b>	134市町村
	地域間連携の強化 —市町村合併の支援—	■福井の道30分圏構想 (30分圏達成市町村)	22市町村 <b>+2市町村</b> (小浜西IC開通前)	24市町村 <b>+11市町村</b> (小浜西IC開通後)	全市町村
地域をまもる	過疎・高齢化・多自然型居住への対応	■医療施設からの時間短縮効果 (福井社会保険病院から30分圏カバー人口)	13万人	13万人 <b>+25万人</b>	38万人

この指標は基本目標における1例を示したものであり、今後、運用しながら内容の充実を図っていきます。

県民の意見を聞く取組みを進める

積極的な広報・説明活動

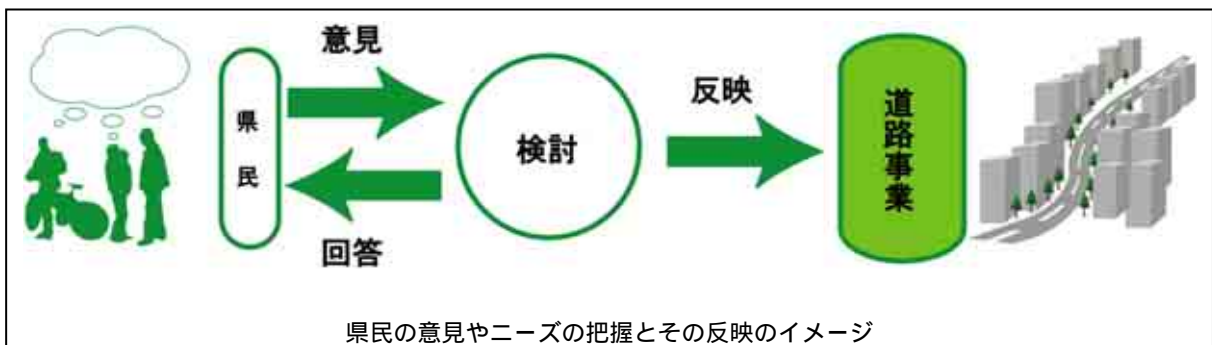
道路計画の透明性・公正性を確保し、事業を円滑に進められるよう、道路整備に関する各種パンフレットの発行、新聞・テレビ等のマスコミの活用、ホームページの拡充など、積極的な広報・説明活動を行います。

県民の意見やニーズの把握

事業内容や規模に応じて道づくり協議会を設けるなど、地域住民の意見を取り入れて合意形成を図りながら道路整備を進めます。



「道づくり協議会」による住民参画



県民の意見やニーズの把握とその反映のイメージ

(3) 成果(アウトカム)指標の具体例

大都市圏との交流の促進 < 地域をきづく道づくり >

道路整備により大都市圏をはじめとする広域圏との人・物の交流がどの程度促進されたかに着目します。

- アウトカム指標の例 -

大都市圏からの所要時間の短縮

首都圏、関西圏、中京圏といった三大都市圏から福井県の二次生活圏中心都市\*までの所要時間がどの程度短縮されたか



\* 二次生活圏とは、半径が概ね 6km～10km、人口が 1 万人以上で、日用品以上の買い物ができる商店街や専門医をもつ病院、高等学校等の広域利用施設を備える圏域。福井県では福井市・大野市・武生市・敦賀市・小浜市を中心とした 5 つの二次生活圏に分けられる。

県境を越えた連携の強化 <地域をきずく道づくり>

道路整備が隣接府県との県際交流をはじめとする幅広い交流・連携の活発化にどの程度支援したのかに着目します。

- アウトカム指標の例 -

2時間行動圏域の拡大

福井県の二次生活圏中心都市から2時間以内に到達できる県外の行動圏域がどの程度拡大したか

隣接府県との交流・連携を促進します。

例えば…… 福井市の2時間行動圏域(日帰り圏)が拡大。



地域間連携の強化(市町村合併の支援) <地域をきずく道づくり>

市町村合併、市町村間の連携など広域的なまちづくりや、県内における新たな地域間の交流・連携の活発化に対してどの程度支援したのかに着目します。

- アウトカム指標の例 -

30分圏構想達成率

県内の隣接する都市間、周辺町村と近接する2都市間、および各市町村から高速道路のインターチェンジまで、それぞれ概ね30分で到達できる市町村数がどの程度増えたか

地域間の交流・連携を促進します。

例えば…… 福井の道30分圏構想の達成。



過疎・高齢化・多自然型居住<sup>\*1</sup>への対応 <地域をまもる道づくり>

過疎・高齢化に対応し、災害や雪に強く、緊急時における迅速な移動を可能とするなど、道路整備が生活の安心感に関わる諸条件をどの程度高めたかに着目します。

また、道路整備が地域固有の資源を活かした地域づくりを支援し、住み続けたいと感じられるような条件をどの程度満たしたのかに着目します。

- アウトカム指標の例 -

医療施設からの時間短縮

生活圏で中核となる二次医療施設<sup>\*2</sup>から30分圏内の人口がどの程度増加したか

災害や雪に強く、緊急時の迅速な移動を可能にし、生活の安心感を高めます。

例えば…… 医療施設<sup>※</sup>から30分行動圏域拡大によるカバー人口



\*1 多自然型居住とは、都市的サービスとゆとりある居住環境、豊かな自然を併せて享受できる居住形態。

\*2 二次医療施設とは、個人開業医などの初期診療機関(一次医療施設)と、人口50万~100万人に1箇所程度設置されている救急救命センターや大学病院など(三次医療施設)との中間に相当する、専門性が強い機能を持った地域中核医療施設のこと。

複数ルート確保（選択の多様性の確保） <地域をまもる道づくり>

道路整備が、県民の誰もが安全で安心して暮らせる地域づくりにどの程度支援したのかに着目します。

- アウトカム指標の例 -

主要な道路\*が2路線以上確保されている市町村がどの程度あるか

嶺北・嶺南の中心都市（福井市・敦賀市）まで、ルート選択を可能とする主要な道路が2路線以上確保されているか

例えば……複数ルート確保できている市町村



\* 福井県が平成8年度に設定した「福井県緊急輸送道路ネットワーク」のうち、第1次および第2次緊急輸送道路を対象とする。